



グアム大学とオンライン研修で交流しました。

理数科の3年生が10月1日（金）にグアム大学とオンライン研修を行いました。3年生は、SSHⅢの中で2年時に行った課題研究の内容を英語でまとめて発表を行います。一昨年までは、海外の教育機関との交流や研修を通して、英語のコミュニケーション能力を高め、国際感覚を身に付けることを目的として、グアム大学を訪れて様々な研修を実施していました。しかし、コロナ禍で海外の大学を訪問することができないため、今年度はグアム大学とのオンライン研修会を実施しました。



研修会では、グアム大学とオンラインでつなぎ、本校生徒とグアム大学の学生が互いの研究内容を英語で発表して、質疑応答を行いました（上写真）。本校生徒は、スギの腐朽の度合いを伐採せずに調べる方法の研究について、グアム大学の学生は、グアムの海の水質をサンゴの白化や海草の植生から調べる研究について英語で発表しました。生徒たちは、グアムの環境問題とその解決法について、興味深く聴いていました（左写真）。質疑応答では、お互いの国の環境に対する素朴な質問から研究内容に踏み込んだ深い内容まで、活発な議論が交わられていました。現地に行くことができなかったのは残念でしたが、オンラインにすることで今まで限られた生徒しか経験できなかったことを、より多くの生徒が経験できるようになったのは大きな収穫でした。オンラインを取り入れることで、今後のSSH活動の可能性は大きく広がると思います。

＜参加した生徒の感想＞

- 参加前は、自分の英語が伝わるかどうか不安だったが、参加後は、伝えたいという思いがあれば相手に伝わるのが分かり、コミュニケーションにとって何が重要であるか理解できた。

課題研究中間発表会に向けて、プレゼンテーション研修会を実施しました。

理数科の2年生は、SSHⅡの中で自らがテーマを設定して課題研究に取り組んでいます。課題研究で取り組んだ内容は、11月に中間発表会を実施して発表します。そこで、研究した内容のプレゼンテーションをする時の考え方や伝える手法について学ぶため研修会を行いました。



研修会の中で、プレゼンテーションで一番重要なことは、自分の思いを伝えることであり、それは自分たちが行っている研究に興味を持ってもらうことであると強調して伝えました。プレゼンテーションでは、いきなり自分たちの研究の話をするのではなく、問題提起に時間を割いて、なぜ自分たちの研究が必要なのか、どこが新しい発見なのか、興味を持ってもらうことが重要であり、興味を持ってもらって初めて話を聞いてもらえる事を学びました。



生徒たちは、プレゼンテーションを始める前に、研究の意義や自分たちの研究が社会にどのように活かせるのか、意見を出し合って議論しました。プレゼンテーションスキルは、大学だけでなく、社会に出てからも必要なスキルなので、ここで身につけたスキルを将来に活かして欲しいと思います。